

## 名古屋市

### 1. 令和元年度の達成目標・取組状況

令和元年度の達成目標	取組状況
①高齢者支援機関との新たなネットワークの構築や、既存のネットワークへの参加、研修会を通じて連携を図る。	今年度より、5区の単独庁舎区においては、福祉窓口が一元化され、保健センターの精神保健福祉相談員が地域保健活動に専念できる体制であり、区単位において高齢機関との座談会等を設けることにより、連携を促進している。
②地域移行支援利用者数（実人数） 168件/年	4区ごとのブロック単位において、院内説明会を実施し制度の普及を促すとともに、研修の実施や、今年度から始まった社会資源見学事業の利用、ピアサポーターの退院への動機付け支援等のアプローチを実施している。
③ピアサポート活用事業利用件数 30回/年	各ブロック単位において、ピアサポーターの活用を促している。令和元年度、上半期の利用は、13回であり、昨年度実績の12回を上回っている。実際に活動を行ったピアサポーター並びにピアサポーター支援者は、延べ28人であり、昨年度の延べ22人を上回っている。

### 2. 支援事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域 AD 及び都道府県等密着 AD の支援を受けることにより、本市の取り組みを外部の目から見ていただき、助言を受けることにより、様々な視点から施策を実行できている。</li> <li>また、事務担当者の悩みを共有していただけることは心強い事業である。</li> <li>すなわち、行政側の見立てだけでなく、より俯瞰して包括ケアの取り組みを推進することができる。</li> </ul>
--

### 3. 次年度に向けた課題等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主管課が主体となって取り組みを行うのではなく、各区の地域精神保健福祉活動にどのようにつなげていくか。</li> <li>・一定程度、地域移行支援の件数は増加してきたが、地域移行支援制度の事務の複雑性や採算性を明確に示すことができていないため、一般相談支援事業所の裾野を広げるために、これらの研修開催が必要。</li> <li>・各ブロックが事業体側面に偏っているため、地域精神保健医療福祉資源分析データベース：リムラッドを活用し、協議の場で議論することが必要。</li> </ul>
---

### 4. 課題の解決に向けた 令和2年度取組方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・構築推進サポーターを活用した、包括ケアシステムの構築推進を図る。</li> <li>・ブロック調整会議の運営方法を主管課主体から改める。</li> <li>・自立支援連絡協議会との連携</li> </ul>
---